

健康考え米作り

東京 児童が手植え



学校の水田で「春陽」の苗を植える児童ら（11日、東京都中野区立上鷺宮小学校で）

新潟県長岡市の稲作農家でつくる米販売会社(有)エコ・ライス新潟の社員らが11日、東京都中野区立上鷺宮小学校を訪れ、

児童に田植えを指導した。農業の大切さとともに、食事と健康の関係を学んでもらおうと、5年

生70人が低たんぱく質の品種「春陽」の苗を校内に設けた約10平方メートルの水田に手植えた。

同社のほか、管理栄養士を目指している東京家政大学栄養学科の学生5人が参加。教室内でスライドショーを使い、児童らに米作りを教えた。

指導した同社の阿部信行さん(52)は、新潟で「春陽」を栽培して8年。「ただおいしい米を作るだけでなく、健康について考え、米作りの体験と一緒に体の勉強にもなればいい」と話した。参加した児童は「田植えをするのは初めてで楽しい。稲がどのくらいの高さになるのか楽しみ」と話した。

同社は「春陽」を原料に、食事制限が必要な人でも安心して食べられるアルファ米「はんぶん米」を開発。5年間保存でき、非常食として期待される。

中野区の小学校2校は同社の指導を受けながら米作りを体験している。「春陽」の栽培は今年で3年目になる。